第４回史跡小牧山整備計画専門委員会　次第

平成３１年２月２８日（木）　午後１時
小牧市役所　東庁舎４階　本会議用控室

１　あいさつ

２　議　　題
（１）史跡小牧山主郭地区整備基本計画の修正について

（２）小牧山城史跡情報館の展示について

３　報　　告
（１）史跡小牧山主郭地区第１１次発掘調査について

４　その他

史跡小牧山主郭地区整備計画（平成21年3月策定）から
史跡小牧山主郭地区修正整備計画の改訂点　[報告書目次比較]

第１章　主郭地区の現況	第１章　主郭地区の現況	P-1 ・基本構想、史跡小牧山主郭地区整備計画以降の流れと、修正整備計画策定が必要になったことの説明
第２章　史跡の現況と推定 2-3. 遺構の推定 2-4. 発掘成果のまとめ 2-5. 今後の発掘調査予定 2-6. 整備へ向けての今後の調査課題	第２章　史跡の現況と推定 2-3. 遺構の推定 ・遺構分布図の改訂 2-4. 発掘成果のまとめ ・平成２０年度以降の調査を追記 2-5. 今後の発掘調査予定 ・今後の調査予定に改訂 2-6. 整備へ向けての今後の調査課題 ・新たな調査課題を整理	P-２～６ P-2　試掘・発掘調査図 P-3　遺構推定図（平面図） P-4　遺構推定図（オルソ図） P-5　想定される主郭地区の構造 P-6　平成２１年から２８年までの発掘調査概要
第３章　基本計画 3-1. 基本方針の策定 3-2. ゾーニング計画と整備内容 3-3. 遺構整備計画 1）現在までに判明した遺構と整備計画 2）Ａゾーン（主郭）の計画 3）Ｂゾーン（西側曲輪）の計画 4）Ｃゾーン（西側の堀と土塁）の計画 5）Ｄゾーン（大手道）の計画 6）E-1ゾーン（主郭南側の曲輪）の計画 3-4. 主郭地区整備計画図	第３章　基本計画 3-1. 基本方針の策定 ・基本法方針に大きな修正はないが、既存石材の取扱いを修正する。 3-2. ゾーニング計画と整備内容 ・ＡゾーンとＥ-1ゾーンの修正が必要 3-3. 遺構整備計画 1）現在までに判明した遺構と整備計画 ・遺構と整備概念図を改訂 2）Ａゾーン（主郭）の計画 ・修正整備計画に改訂 3）Ｂゾーン（西側曲輪）の計画 4）Ｃゾーン（西側の堀と土塁）の計画 5）Ｄゾーン（大手道）の計画 6）E-1ゾーン（主郭南側の曲輪）の計画 ・修正整備計画に改訂 3-4. 主郭地区整備計画図 ・修正整備計画に改訂	P-７ ・ゾーニング計画図 P-８～１５ ・遺構整備計画【Ａゾーン（主郭）】 P-８～１５ ・遺構整備計画【Ａゾーン（主郭）】 P-１６ ・遺構整備計画【Ａゾーン（主郭）】
第４章　整備へ向けて 4-1. 事業計画	第４章　整備へ向けて 4-1. 事業計画 ・新たに作成	P-１７ ・史跡小牧山　整備スケジュール（案）

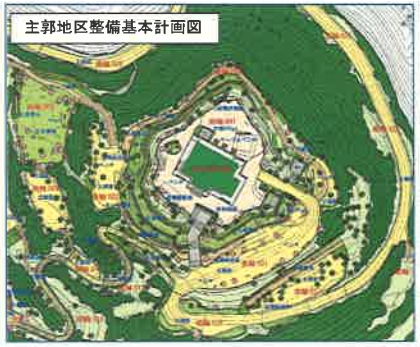
『史跡小牧山整備計画基本構想』（平成 10 年度策定）

中期調査として主郭展示エリアの調査の実施
中期整備として主郭展示エリアの曲輪、道の整備

H16～H20 年までの試掘調査、発掘調査

史跡小牧山主郭地区整備基本計画（H20 年度策定）

H23『史跡小牧山主郭地区整備基本計画』（H20 年度策定）より
- 城郭展示ゾーンの主郭展示エリアと位置づけられ『史跡小牧山整備計画基本構想』[平成 10 年度策定]、調査で確認された遺構の表示や復元、修復整備を行う。また、城郭構成上最も重要な場所とされている。
- これまでの定説を覆す発見である石垣は、現状保存を原則とするが、整備可能なものは復元整備を行う。
- 発掘調査で確認された石垣遺構については、今後も引き続き適切な調査区を定め調査を進め、その形態・性質を把握する。



文化庁指導事項（H23 年４月）

- 発掘調査で確認された石垣遺構については、今後も引き続き適切な範囲の調査区を定めて調査を進め、その形態・性質を把握する
- 主郭を囲む石垣については、石垣の築造年代論等、さまざまな角度からの学術的検討を経た後に一定の結論を得てからその検討結果を踏まえ、遺存状況、形態・性質等により解体修理、修復、整備等の具体的な方向性を定める。各々の方向性に基づき、事業実施の年度に合わせて実施設計を行う。
- 実際の解体修理、修復、整備に当たっては、必要に応じて追加的な調査を実施する。

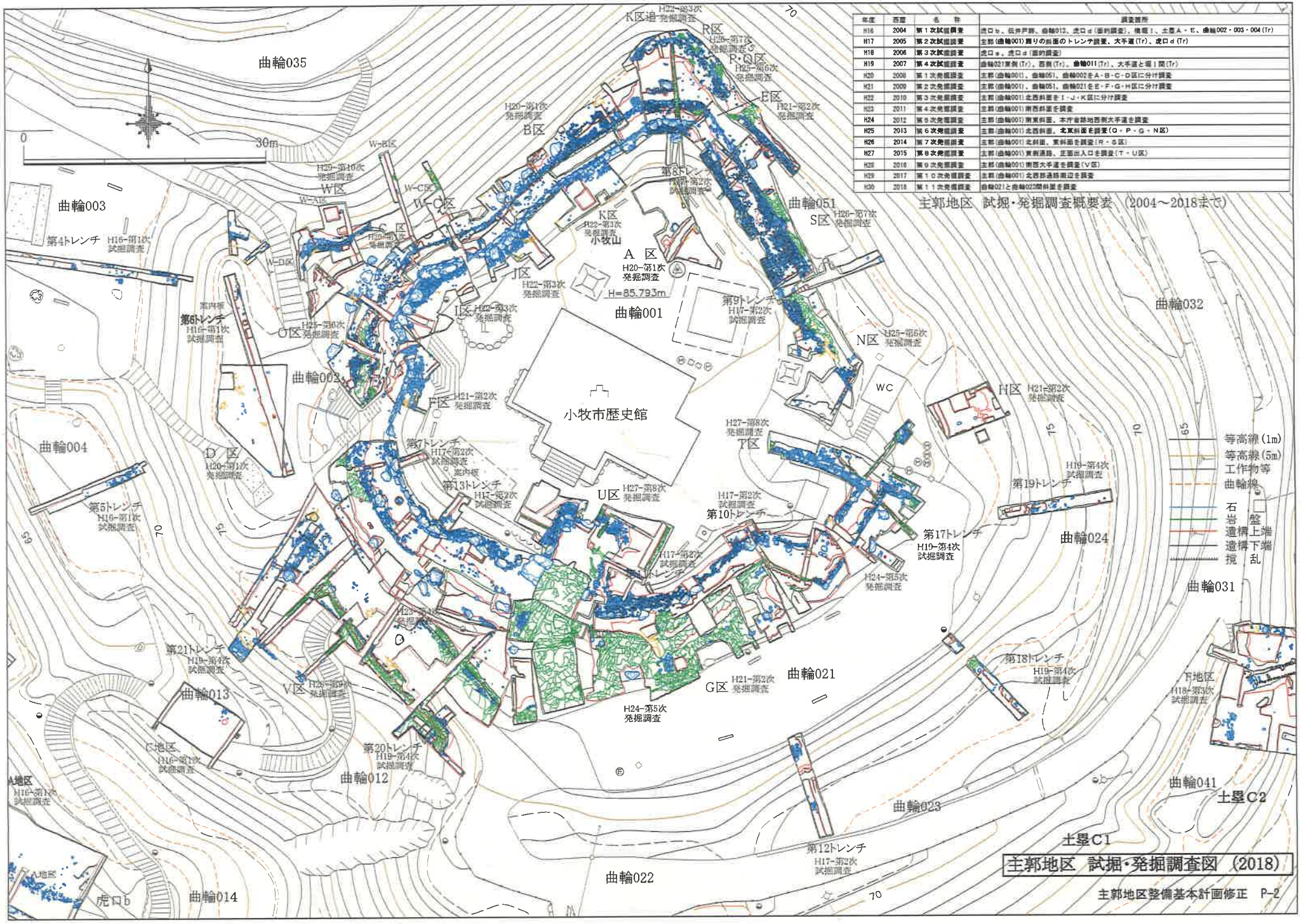
H21 年度以降の発掘調査（H21 年からH30 年）

※下図は第 9 次発掘調査までをまとめたもの（概要は、資料-１参照）

※第 10 次発掘調査
- 北西斜面で大きく張り出した3段目となる石垣を確認。
- 上記石垣は、西側の虎口を構成する石垣と考えられる。

※第 11 次発掘調査
- 主郭南側の１～２段下の斜面で石垣と岩盤による壁面を確認。それにより区画される２面の曲輪（曲輪 022・023）を確認。
- 小牧山城内で初めて１棟の礎石建物の一部を確認。
  建物は、８間(12m)幅に据えられた礎石と、その北側壁（岩盤）に玉石敷と排水用溝が確認された。

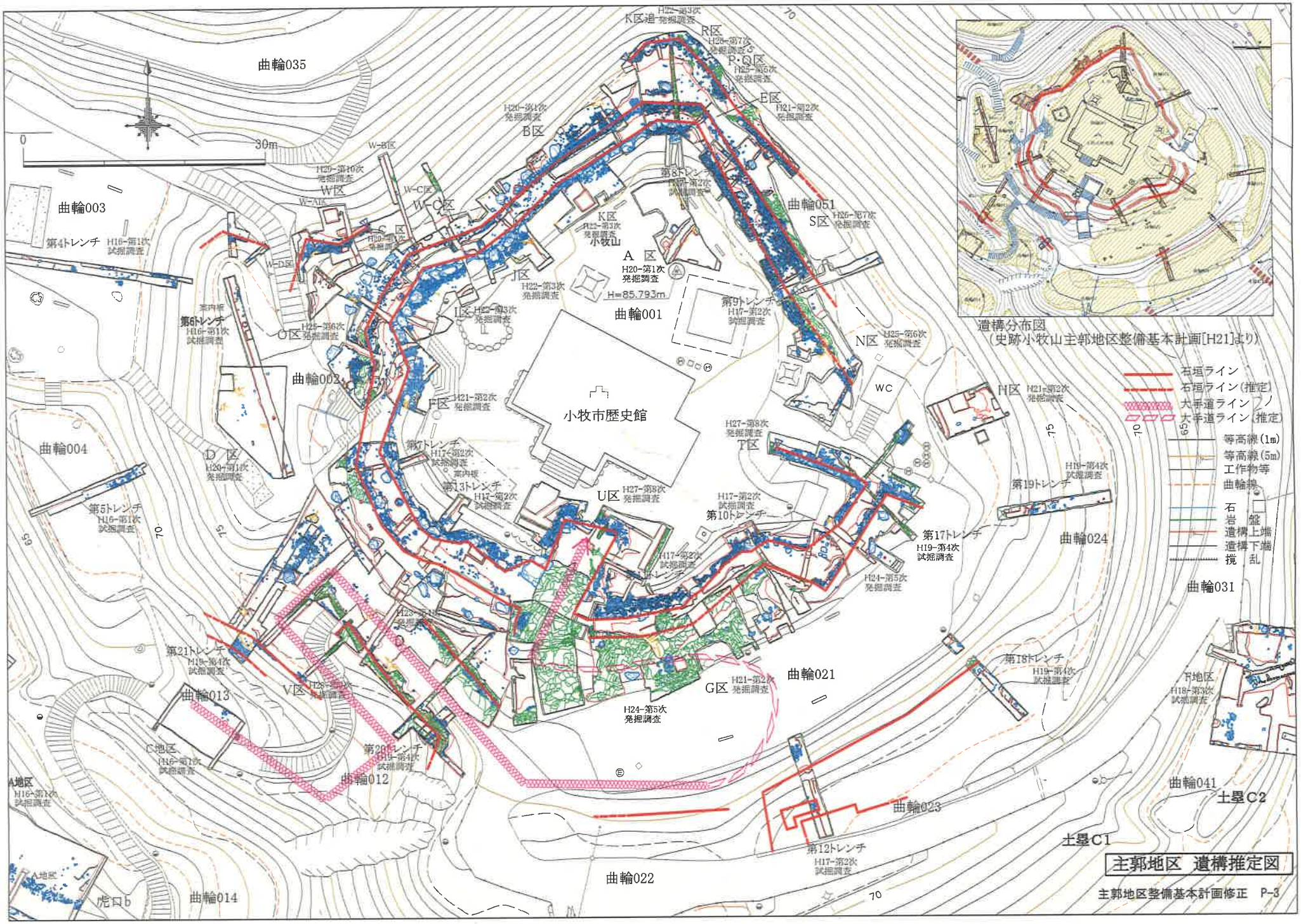
これまでの計画の流れと概要

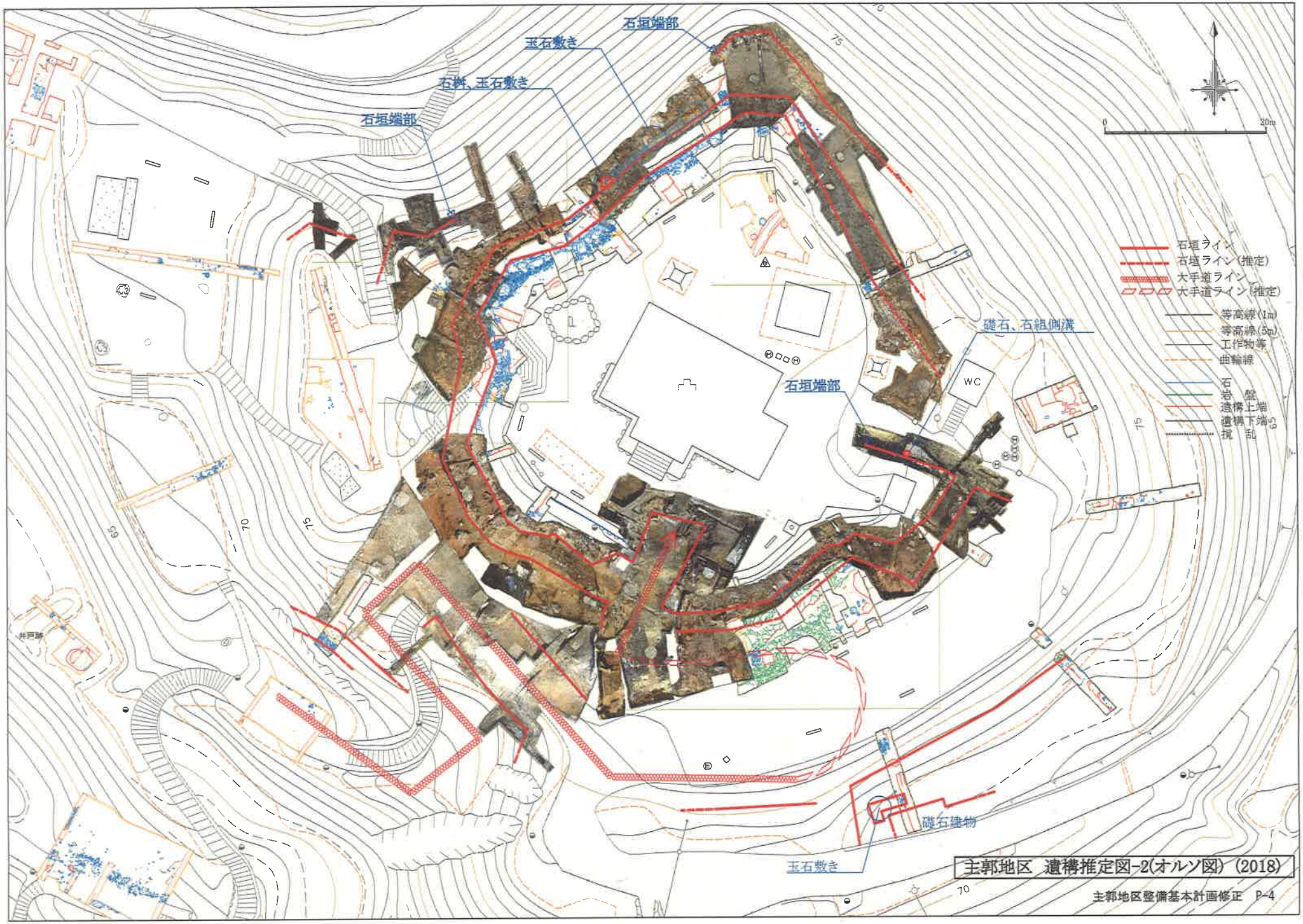


年度	西暦	名 称	調査箇所
H16	2004	第１次試掘調査	虎口ｂ、伝井戸跡、曲輪013、虎口ｄ(面的調査)、機能Ⅰ、土塁Ａ・Ｅ、曲輪002・003・004(Tr)
H17	2005	第２次試掘調査	主郭(曲輪001)周りの斜面のトレンチ調査、大手道(Tr)、虎口ｄ(Tr)
H18	2006	第３次試掘調査	虎口ｅ、虎口ｄ(面的調査)
H19	2007	第４次試掘調査	曲輪021東側(Tr)、西側(Tr)、曲輪011(Tr)、大手道と堀Ⅰ間(Tr)
H20	2008	第１次発掘調査	主郭(曲輪001)、曲輪051、曲輪002をＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ区に分け調査
H21	2009	第２次発掘調査	主郭(曲輪001)、曲輪051、曲輪021をＥ・Ｆ・Ｇ・Ｈ区に分け調査
H22	2010	第３次発掘調査	主郭(曲輪001)北西斜面をＩ・Ｊ・Ｋ区に分け調査
H23	2011	第４次発掘調査	主郭(曲輪001)南西斜面を調査
H24	2012	第５次発掘調査	主郭(曲輪001)南東斜面、本庁舎敷地西側大手道を調査
H25	2013	第６次発掘調査	主郭(曲輪001)北西斜面、北東斜面を調査(Ｑ・Ｐ・Ｇ・Ｎ区)
H26	2014	第７次発掘調査	主郭(曲輪001)北斜面、東斜面を調査(Ｒ・Ｓ区)
H27	2015	第８次発掘調査	主郭(曲輪001)東側通路、正面出入口を調査(Ｔ・Ｕ区)
H28	2016	第９次発掘調査	主郭(曲輪001)南西大手道を調査(Ｖ区)
H29	2017	第１０次発掘調査	主郭(曲輪001)北西部通路周辺を調査
H30	2018	第１１次発掘調査	曲輪021と曲輪022間斜面を調査

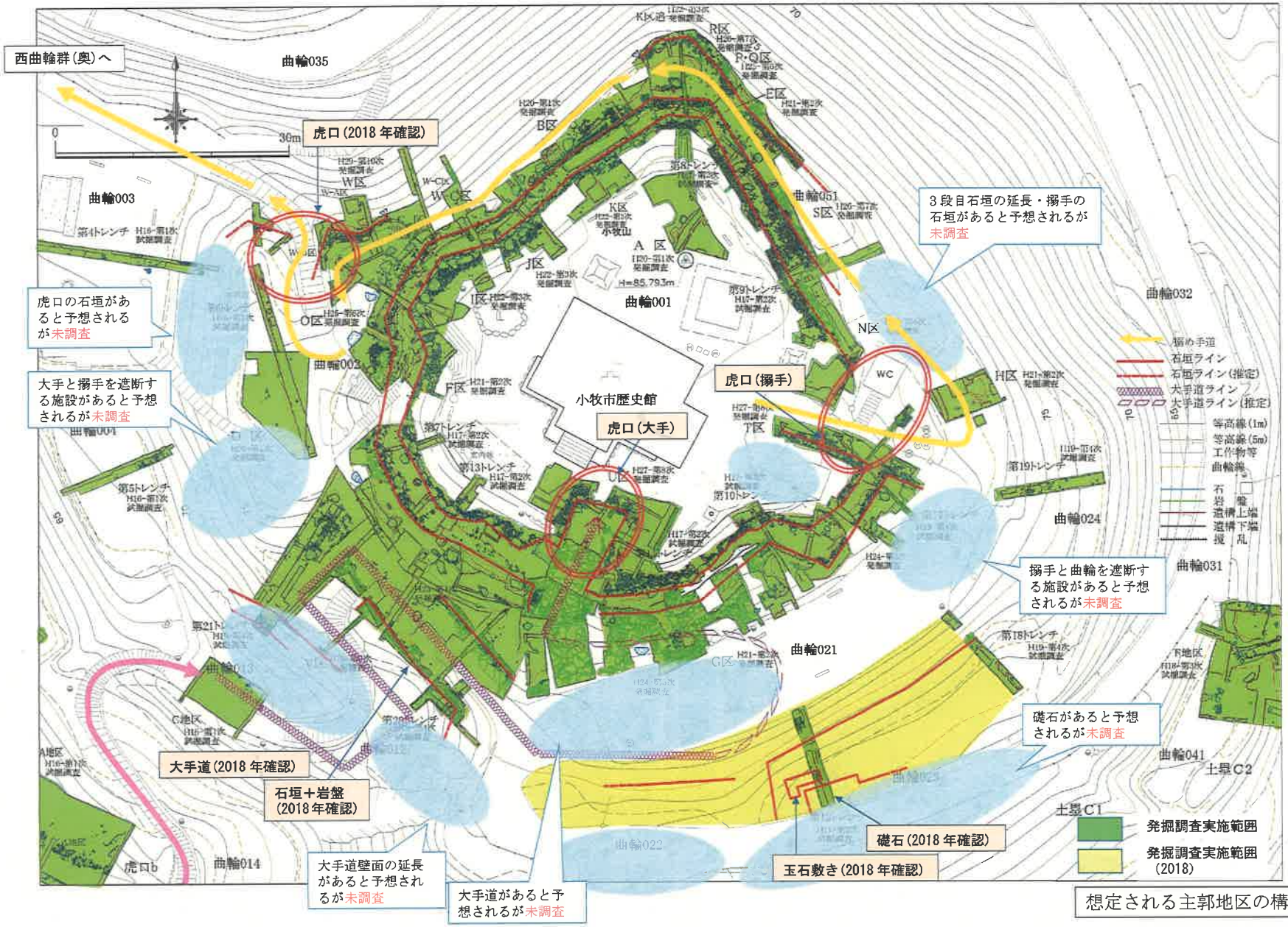
主郭地区　試掘・発掘調査概要表　(2004～2018まで)

主郭地区　試掘・発掘調査図　(2018)


主郭地区 遺構推定図
遺構分布図
（史跡小牧山主郭地区整備基本計画[H21]より）
石垣ライン
石垣ライン（推定）
大手道ライン
大手道ライン（推定）
等高線（1m）
等高線（5m）
工作物等
曲輪線
石
岩盤
遺構上端
遺構下端
撹乱
小牧市歴史館
小牧山
H=85.793m
曲輪001
曲輪002
曲輪003
曲輪004
曲輪012
曲輪013
曲輪014
曲輪021
曲輪022
曲輪023
曲輪024
曲輪031
曲輪035
曲輪041
曲輪051
土塁C1
土塁C2
A区
B区
C区
D区
E区
F区
G区
H区
I区
J区
K区
L区
N区
P・Q区
R区
S区
T区
U区
W区
W-A区
W-B区
W-C区
W-D区
WC
第4トレンチ
第5トレンチ
第6トレンチ
第7トレンチ
第8トレンチ
第9トレンチ
第10トレンチ
第12トレンチ
第13トレンチ
第17トレンチ
第18トレンチ
第19トレンチ
第20トレンチ
第21トレンチ
A地区
B地区
C地区
F地区
虎口b
30m
0



主郭地区　遺構推定図-2(オルソ図)（2018）



想定される主郭地区の構造(2018)

調査年；H21 年度(2009)　第２次発掘調査
調査区 - E・F・G・H（主郭曲輪周り）
・　E 区→上下２段（石垣□、□）の石垣を確認
・　F 区→現在の通路下に石垣の基底部を確認
・　G 区→上下２段の切り立てられた岩盤を確認　（３段の段築状の石垣が築かれていた）
・　H 区→曲輪面を確認（礎石の可能性がある扁な　　石を１個検出）

調査年；H22 年度(2010)　第３次発掘調査
調査区 - 調査区 - I・J・K（北西部）
・　I 区→上下２段（石垣Ⅰ、Ⅱ）の石垣を確認
主郭地区最大の石材が積まれている(櫓などの特殊防御施設に伴う築造の可能性がある)
→主郭曲輪を構築する大規模な版築積土を確認
→小牧山産チャートに混じり花崗岩２石[岩崎山産]（石には刻印あり）
・　J 区→上下２段（石垣Ⅰ、Ⅱ）の石垣を確認
→地山から大規模な版築状積土をし、主郭曲輪の平坦面と端部を形成していることを確認
・　K 区→上下２段（石垣Ⅰ、Ⅱ）の石垣を確認、北尾根に沿って下段の曲輪に伴う３段目（石垣□）を確認
→2 段目石垣の曲輪で丸礫が敷き詰められた部分を確認

調査年；H23 年度(2011)　第４次発掘調査
調査区 - L 区（南西斜面）
・　L 区→上下２段（石垣Ⅰ、Ⅱ）の石垣及び岩盤加工の痕跡と主郭の大手虎口西側では大手道と推定される平坦面に石垣□・□及び岩盤加工が接続する状況を確認
→大手道西側に露頭している矢穴・刻印のある花崗岩巨石は、築城段階で大手虎口に巨岩を岩崎山から搬入配置し、慶長期に分割し運び出そうとしていたことが明らかになった

調査年；H24 年度(2012)　第５次発掘調査
調査区 - M 区（南東斜面）
・　M 区→主郭を廻る２段（石垣Ⅰ、Ⅱ）の石垣及び岩盤加工の痕跡とそれに伴う造成土を確認
→南東方向の主郭の張り出し部で、石垣□の屈曲部（出隅）において隅角石の築石の原位置を確認

調査年；H25 年度(2013)　第６次発掘調査
調査区 - N 区（東斜面）、O・P・Q（北西斜面）
・　N 区→上下２段（石垣Ⅰ、Ⅱ[岩盤]）の石垣を確認し、石垣□と直交する方向に石垣状の遺構を確認
・　O・P・Q 区→石垣□が全て築石により構成され、石垣□とともに屈曲を繰り返しながら北西斜面を囲んでいる状況を確認
→石垣□全面の平坦部に石桝の可能性のある石組遺構１基や玉礫が敷設されているのを確認

調査年；H26 年度(2014)　第７次発掘調査
調査区 - R 区（北～東斜面）、S 区（北斜面）
・　R、S 区→主郭の北～東斜面を廻る３段（石垣Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）の石垣を確認
→石垣□は、曲輪 051 の平坦面を画しながら主郭を取り巻く新たな石垣プランである
→石垣□の前面で土杭１基を確認（石垣の崩落を防ぐ地盤補強に伴うものと推定される）
→石垣□は、法面上半が土の斜面、下半が石垣で構成される腰巻石垣で、花崗岩の搬入石材が多用されている

調査年；H27 年度(2015)　第８次発掘調査
調査区 - T 区（東側開口部[屋外便所南側通路]）、U 区（南側開口部）
・　T・U 区→主郭一段下の曲輪 021 から主郭へ向かって伸びる石垣□・□により画された通路状遺構を確認
・　→通路状遺構により、主郭の南面と東面の出入口の存在を明らかにすることができた
・　※南面出入口が大手口、東面出入口が搦手口
→石垣□の前面で土杭１基を確認（石垣の崩落を防ぐ地盤補強に伴うものと推定される）
→T 区では、石垣□の前面に沿って設けられた石組み遺構と礎石１基を検出

調査年；H28 年度(2016)　第９次発掘調査
調査区 - V 区（南西斜面の登城路との接続部）
・　V 区→石垣、岩盤の加工痕跡、通路状遺構を確認
→石垣の基底部は、山本来の岩盤を水平に削平した地業面上に据えられている
→岩盤の壁面高さは 3.2m、その上の石垣の推定高さは約 2m（石垣面 B）
→岩盤面と石垣面により、東西方向にコの字型の壁面が構成され、壁面南側に幅約 8.8 m の下段の通路状平坦面が並行する
→上記壁面より北側でも岩盤を切立てた壁面を確認。高さは 1.7m で、下部の通路状平坦面（幅員約 6.1m）では 30cm 幅の拳大丸礫を確認（６次発掘調査で確認された礫群に類似）
→天正期に構築された土塁を確認

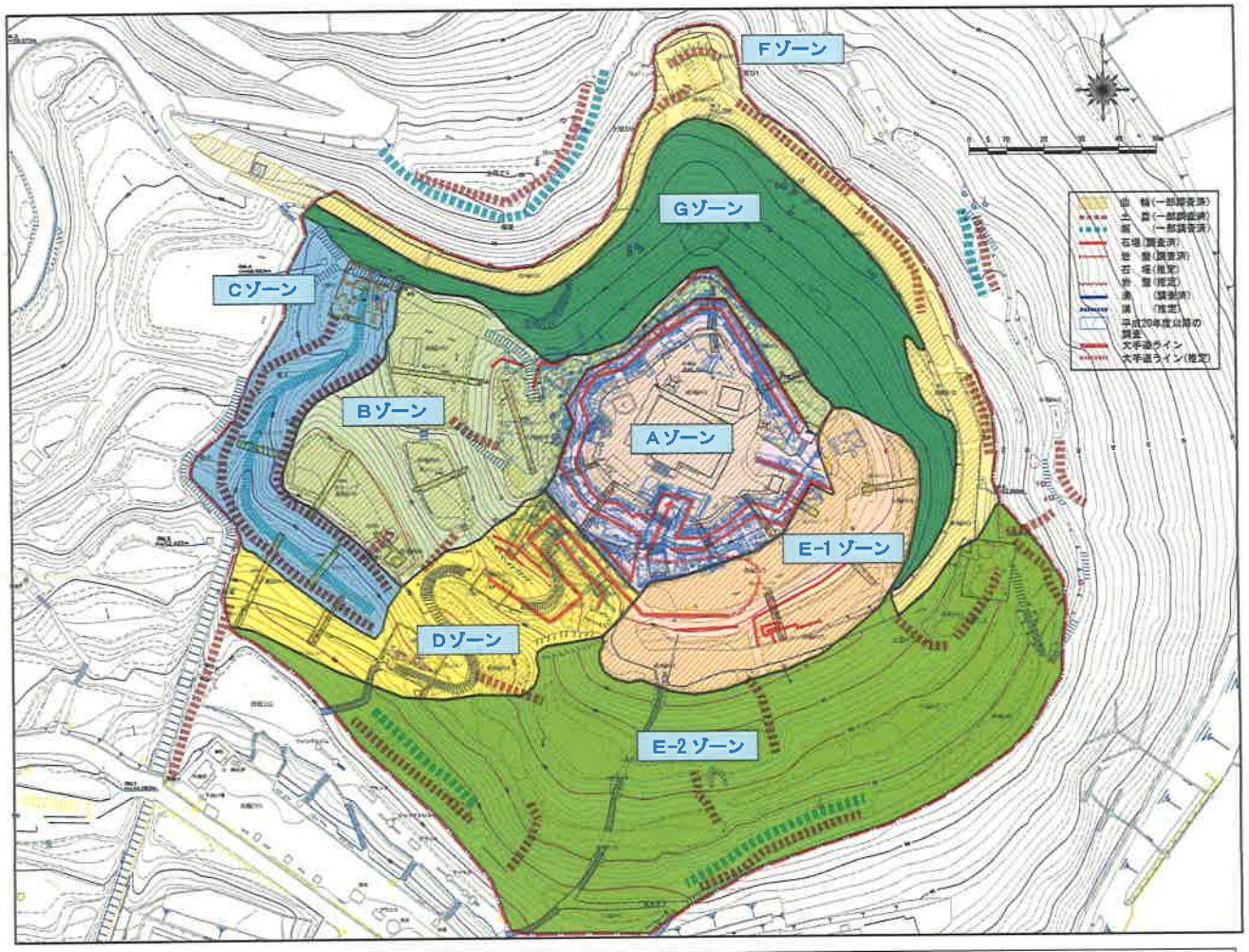
調査年；H29 年度(2017)　第１０次発掘調査
調査区 - W 区（H26 年度調査 O 区の北側斜面）
・　W 区→石垣Ⅲを確認（小牧山産堆積岩に自然石に混じり川原石を確認）
→山頂西側に展開する曲輪群から主郭に至る登城道の途上に位置し、道の両側を挟むように張り出す形状となっている
※出入口（虎口）の存在が考えられる
→石垣は根石を土中に埋め、その上を化粧土（黄色細粒砂）で整え、化粧土上面からは舗装のための玉砂利も出土

調査年；H30 年度(2018)　第１１次発掘調査
調査区 - X 区（南側斜面）
・　X 区→上半が石垣、下半が岩盤を切立てた壁面を確認
→それにより区画される２面の曲輪（曲輪 022・023）を確認
→小牧山城内で初めて１棟の礎石建物の一部を確認
→建物は、８間(12m)幅に据えられた礎石と、その北側壁（岩盤）に玉石敷と排水用溝を確認

平成 21 年から 28 年度までの発掘調査概要

修正基本計画　ゾーニング計画図

ゾーン名	特　　徴
Aゾーン	曲輪001とそれを取巻く斜面や石垣
Bゾーン	主郭から大手道北側の深い堀や土塁に囲まれた西側の曲輪002・003・004・005・006・051
Cゾーン	ダイナミックな地形を持ち、主郭への防御上重要であることを感じさせる土塁A・Eとその間の空堀Ⅰ
Dゾーン	築城時の主要路であり、主郭への玄関口でもある大手道とそれに付随する曲輪011・012・013・014と虎口b
E-1ゾーン	主郭の南面で、現在は管理車も通る園路として利用されている、曲輪021・022・023・024
E-2ゾーン	主郭の南側の曲輪025・026・027・041・042・061・062）、虎口c、土塁や堀
Fゾーン	現況は園路として利用されているところで、遺構の残りのよい虎口dを含む、帯曲輪031・032・033・034・035
Gゾーン	遺構はないと思われる現況樹林地



Aゾーン（基本計画からの追記）

・永禄期に造られ天正期にも利用された石垣が今も残っており、発掘調査でも主郭を取巻く石垣や岩盤を削り込み石垣の機能を持たせた箇所も確認されている。また、搦手口と思われる箇所での礎石の確認、排水機能を持たせた石桝状の遺構や側溝状の石組みなど多くの遺構があることが判明した。これらの残された石垣などの遺構は復元整備や修復、表面表示をして、石垣があった城郭としての小牧山城をアピールする場所として整備する。

Bゾーン（基本計画からの追記）

・主郭北側の帯曲輪の形状を持つ曲輪 051 は、Aゾーンの整備に合せて主郭下石垣の観察路として整備していく。

E-1ゾーン（基本計画からの追記）

・1棟の礎石建物跡やそれに伴う玉石敷きと側溝、天目茶碗や青磁の小碗などが確認されるなど重要な場所であったと考えられる。今後も引き続き調査の必要がある。調査結果をもとに遺構復元、表示などの整備をしていく。

Cゾーン、Dゾーン、Eゾーン E-2ゾーン、Fゾーン、Gゾーン

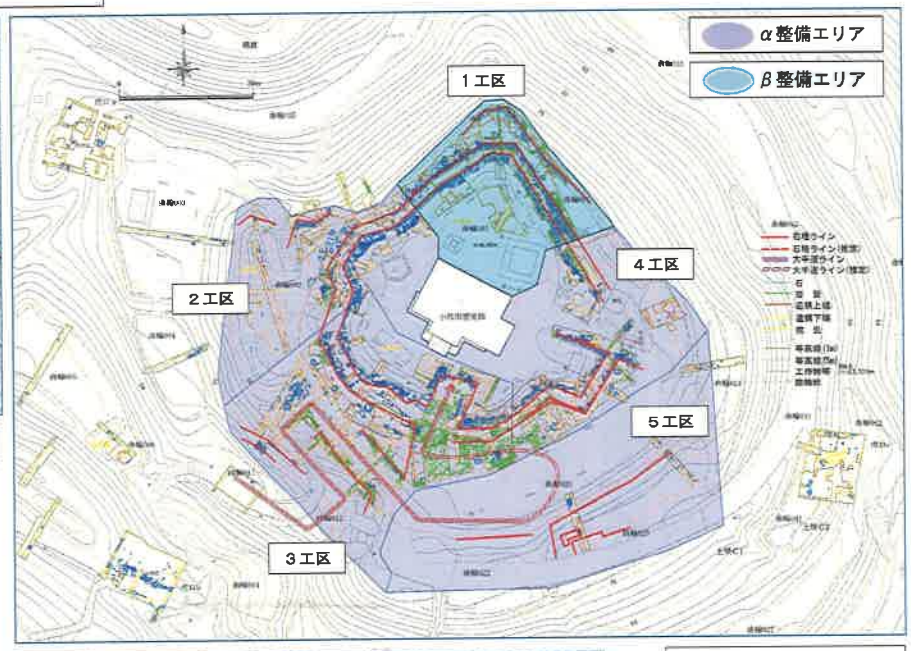
・発掘調査が進み新たな事実が判明したら再度見直しを行うが、当面は基本計画を踏襲する。

遺構整備計画　【Aゾーン（主郭周辺）】

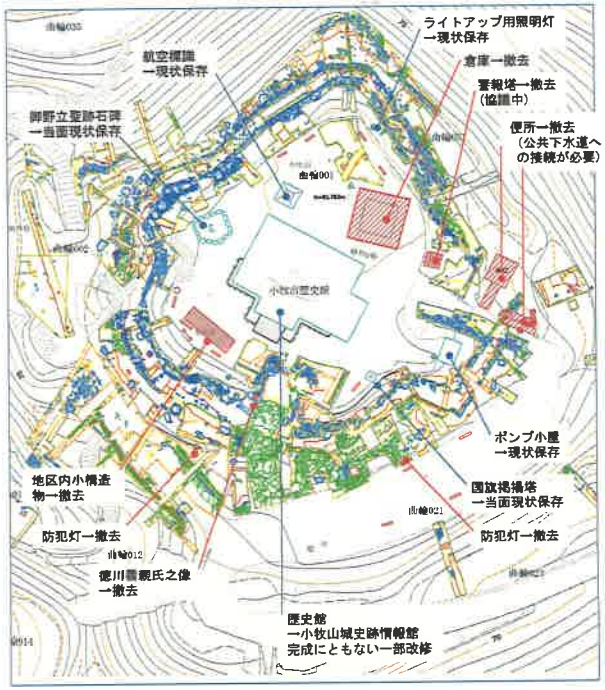
主郭地区整備計画図(基本計画図報告書より

Aゾーン（主郭）とB・E-1 ゾーンを示す

※他のB・C・D・E-2・F・Gの各ゾーンについては基本計画の修正はない



Aゾーン整備計画（案）



現況施設取扱い図

α整備エリアについて

整備内容；石垣、虎口、道の復元

イメージ；オリジナル石垣を中心に整備し、必要最小限の補石以外の復元整備は行わない

工期等；第2工区から第5工区までで、4ヵ年

※H30 年に確認した建物跡周辺は、追加調査が必要であり、調査状況に合せて工区や工期の再検討を行う

河後森城(愛媛県)

石垣を保存しつつ、欠損部は植栽(ササや芝生)による保護をした例

佐敷城(熊本県)

石垣を保存しつつ、欠損部は植栽(芝)による保護をした例

β整備エリアについて

整備内容；石垣や地形の復元

イメージ；石垣が失われている斜面等は、植栽や植生土のう等の他の構造物で表示する

工期等；第1工区で、1ヵ年

一乗谷朝倉氏遺跡(福井県)

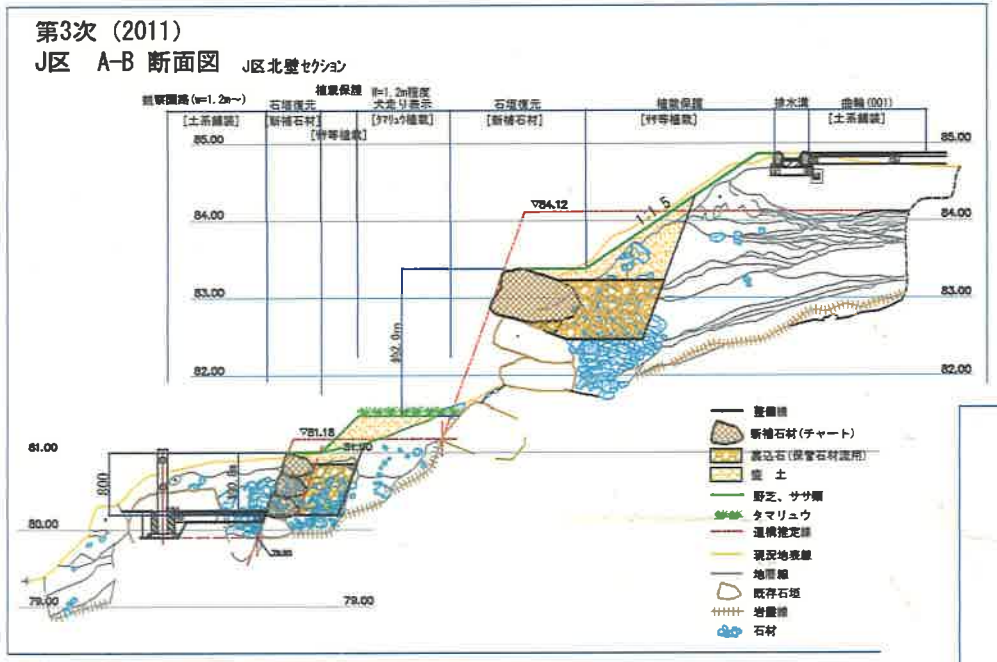
土塁部を植栽(低木生垣や芝)で表現した例

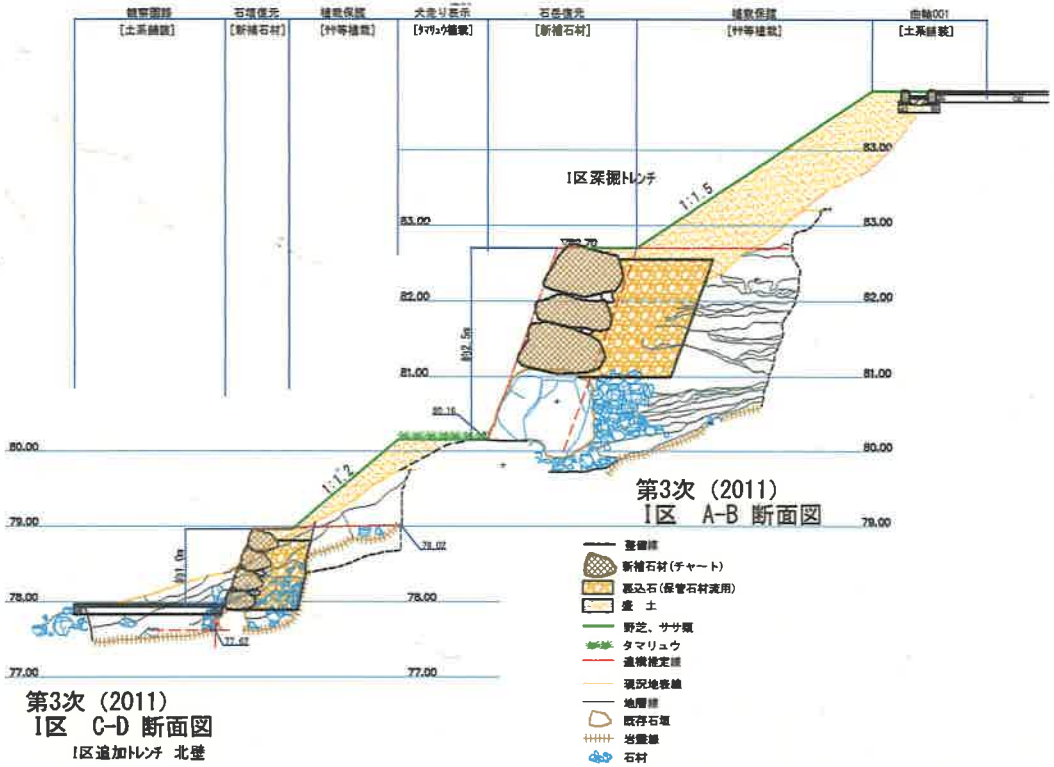
共通内容について

- 物理的に表現できないものは、解説板等サインで来訪者に理解と想像ができるように工夫する。
- 周辺の転落石は転落石として整備、表示し、補石の材として使用しない。
- 石垣に伴う曲輪・城道は、地形・植栽で表現する。
- 調査で出土した裏込石は、調査区ごとに整備時点の裏込材として戻す。
- 主郭付近の現管理道は、整備工事に先立ち、工事車両の通行に耐えられるよう舗装整備を実施する。管理道に位置する曲輪、虎口については必要に応じて追加調査を行い、管理道の機能を保持しつつ遺構情報の整備への反映を検討する。

発掘調査断面図と整備計画断面

【α整備標準図（石垣部）】





第3次（2011）
I区　A-B 断面図

第3次（2011）
I区　C-D 断面図
I区追加トレンチ　北壁

【α整備標準図（岩盤部）】

- 岩盤部の整備
  - そのまま見せる
    - A 露出（岐阜城）
    - B 露出+石材強化処理
  - C 保護して表示（下図参照）

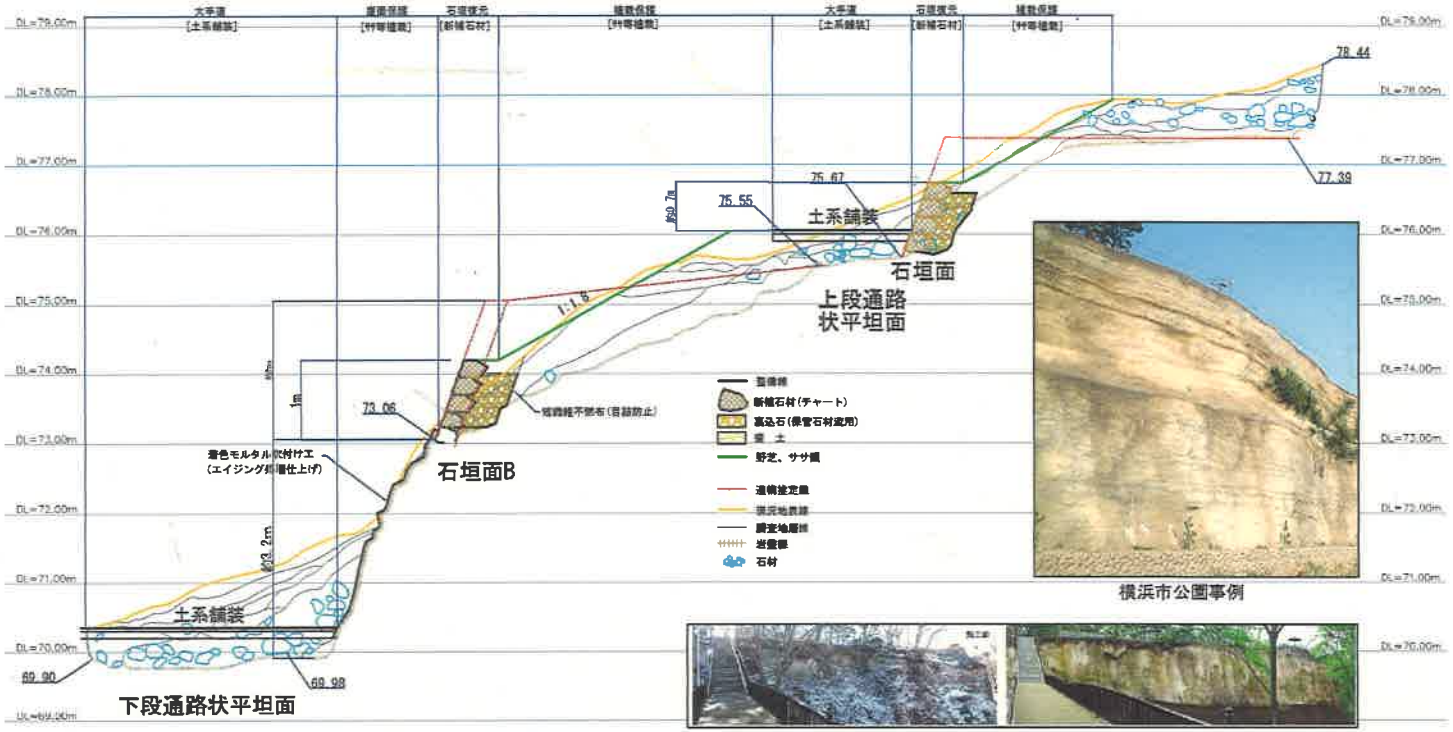
※岩盤部については主郭南側２段目岩盤を一部露出させ、試験的に石材強化処理試験を行い、経過観察をする。（第３工区）　その結果を見てその後の工区の岩盤部の整備手法の検討を再度行う。

A　史跡岐阜城跡　冠木門

史跡岐阜城跡`園路沿

B　千葉県南房総市白浜地係（露頭斜面の強化処理）

C
第9次（2018）
V-d区　アゼ③断面図

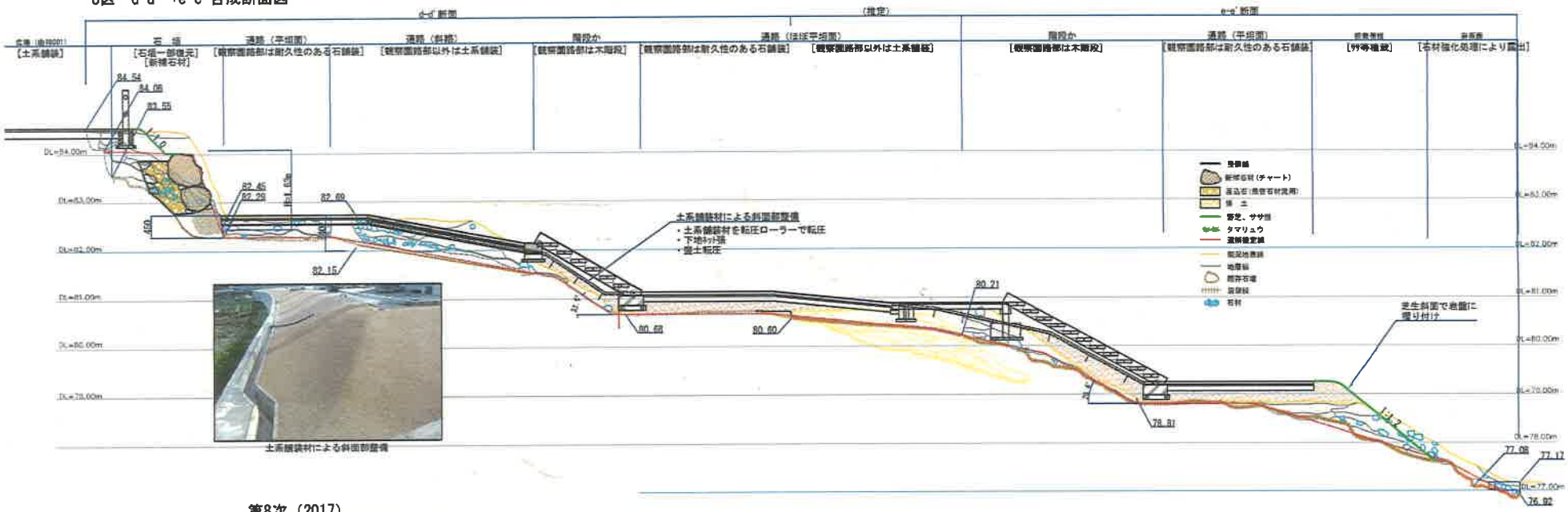


横浜市公園事例

小諸城跡　懐古園事例
着色ﾓﾙﾀﾙ吹付け工法（ｴｲｼﾞﾝｸﾞ処理）

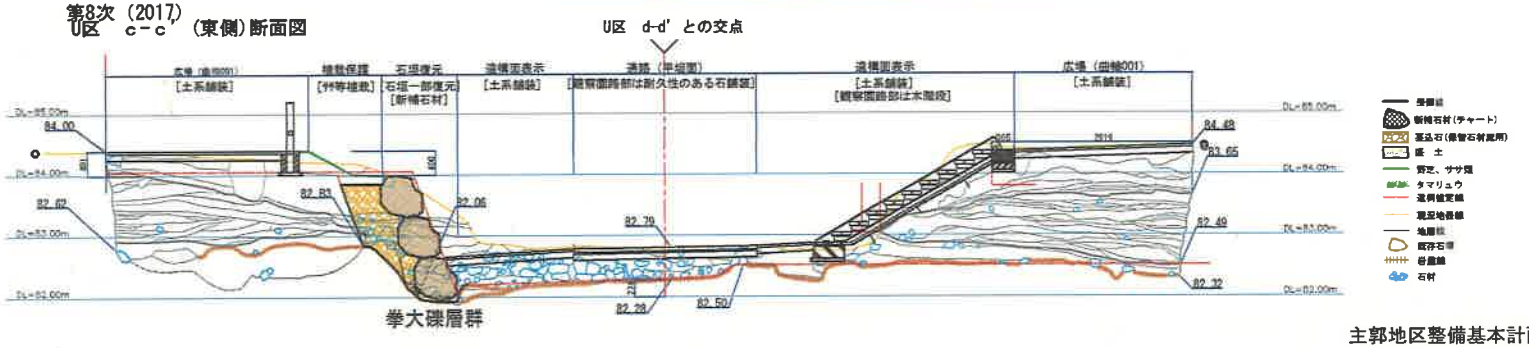
【α整備標準図（大手口部）】

第8次（2017）
U区　d-d'+e-e'合成断面図

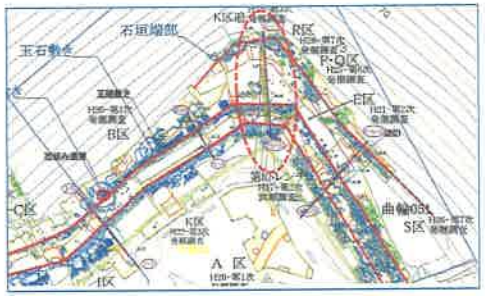


土系舗装材による斜面部整備

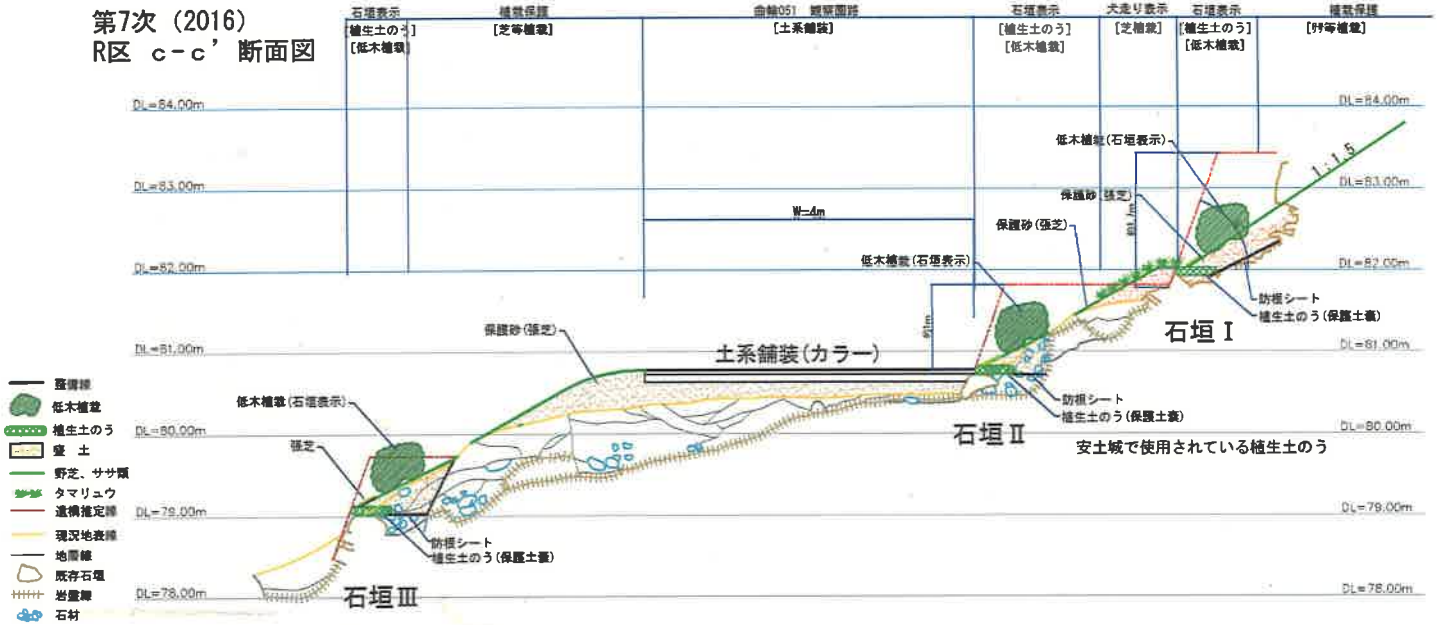
第8次（2017）
U区　c-c'（東側）断面図



【β－整備標準図（植栽表示パターン）-①】

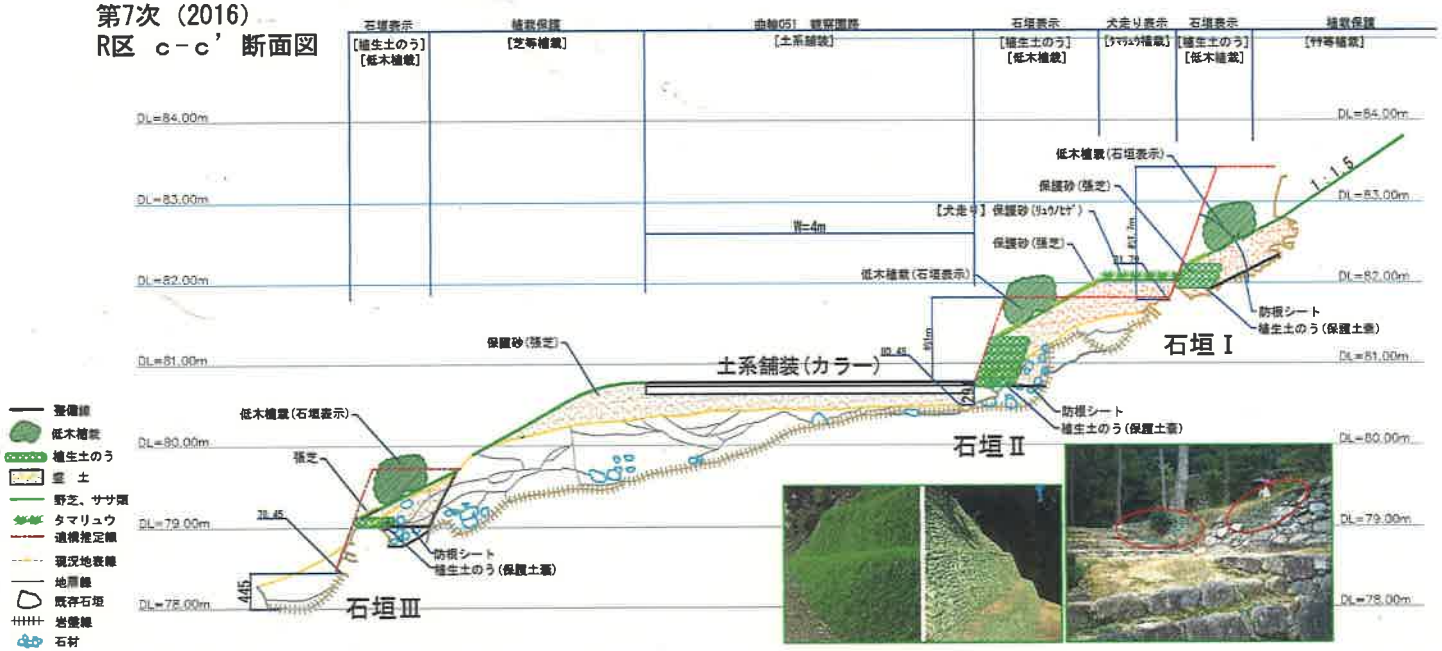


第7次（2016）
R区　c－c’断面図

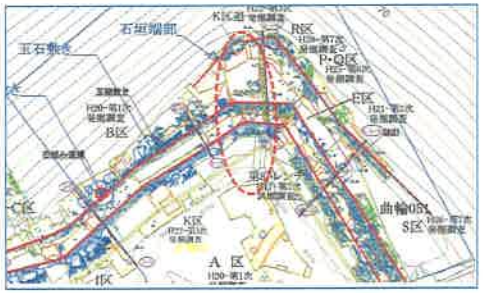


【β－整備標準図（植生土のう＋
低木植栽表示パターン）】-②

第7次（2016）
R区　c－c’断面図

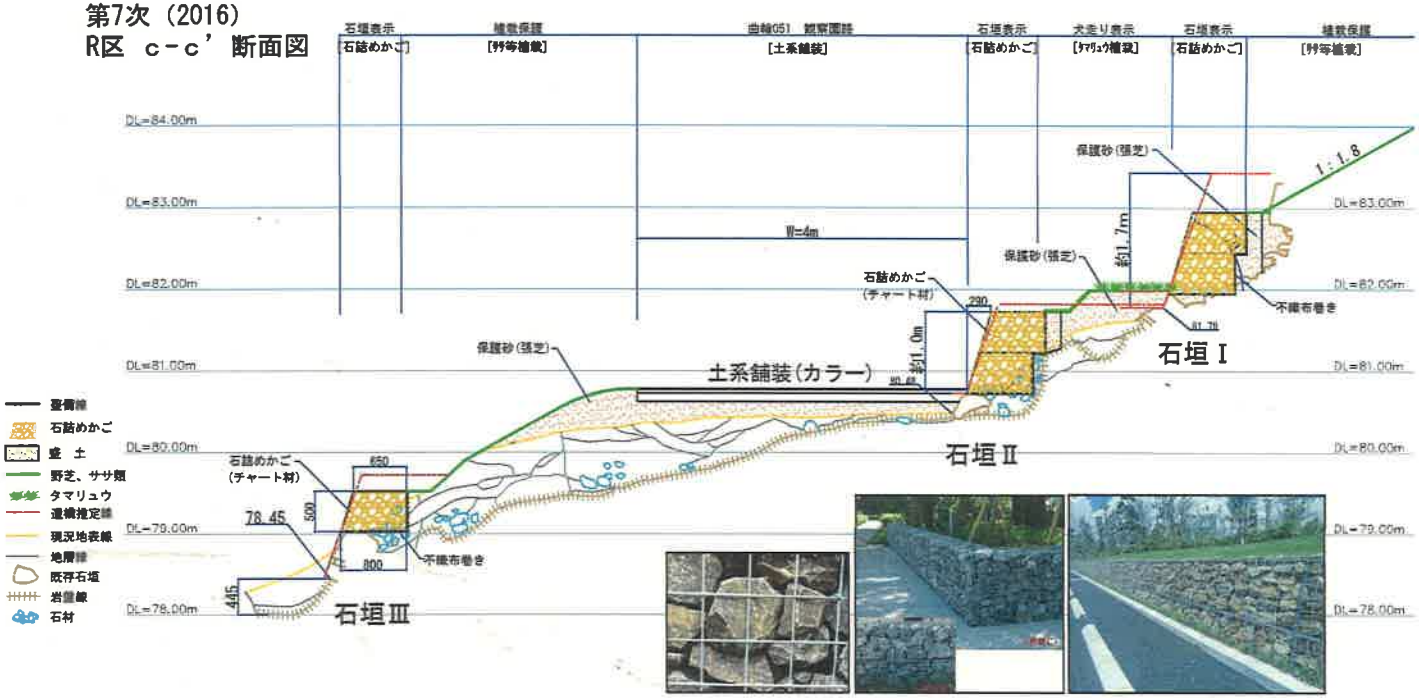


【β－整備標準図（石詰めかご表示パターン）－③】

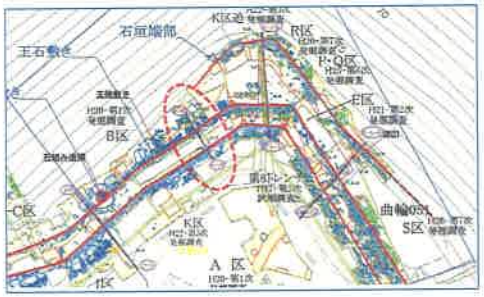


・詰める石材は、発掘調査で産したものや、チャート新材を使用し、復元石垣と景観的に違和感のないよう工夫する。

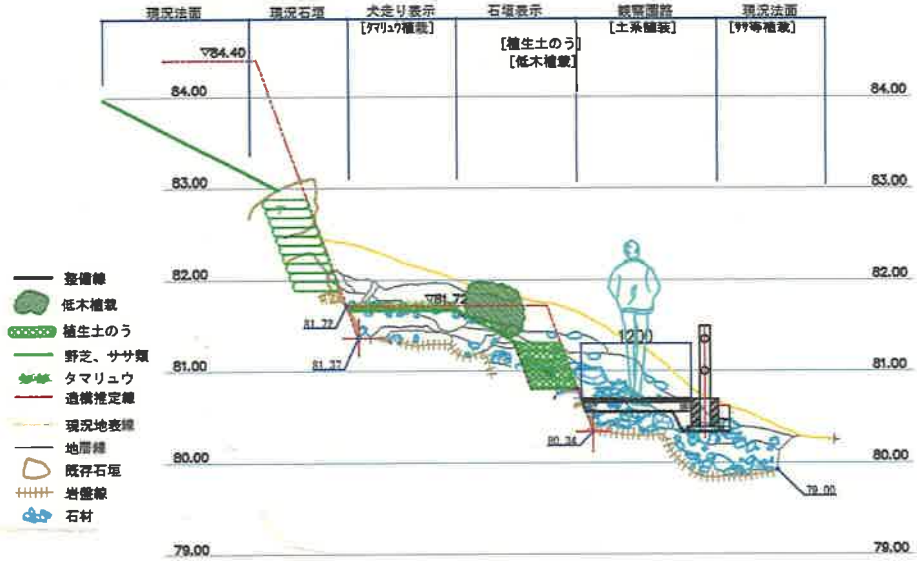
第7次（2016）R区　c－c’断面図



【β－整備標準図（植生土のう＋
低木植栽表示パターン）－②】

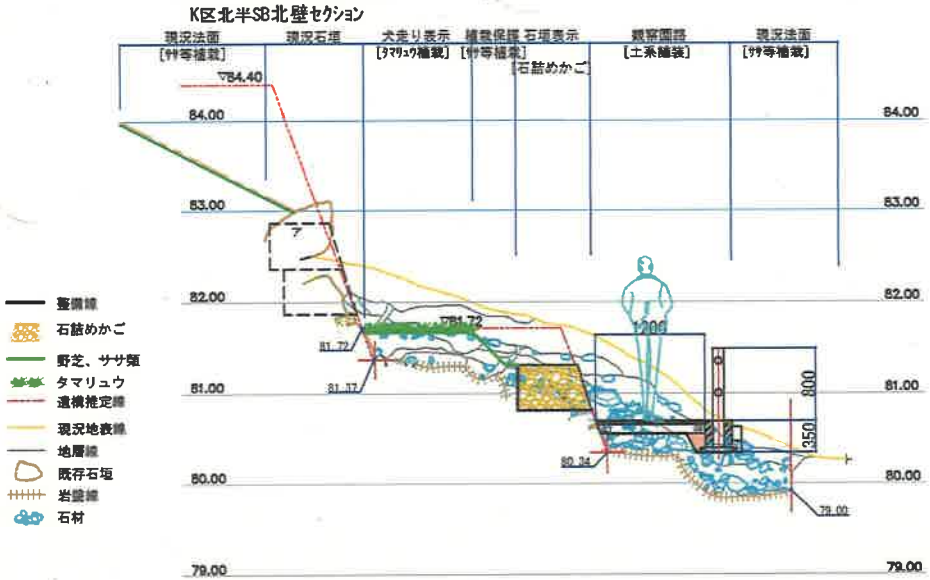


第3次（2011）
K区　A-B 断面図

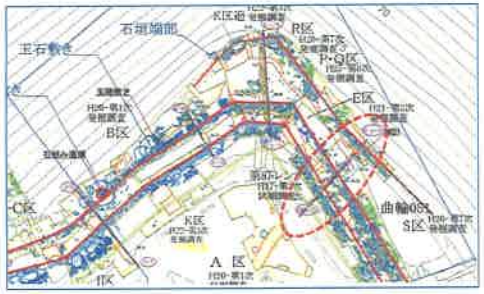


【β－整備標準図（石詰めかご表示パターン）－③】

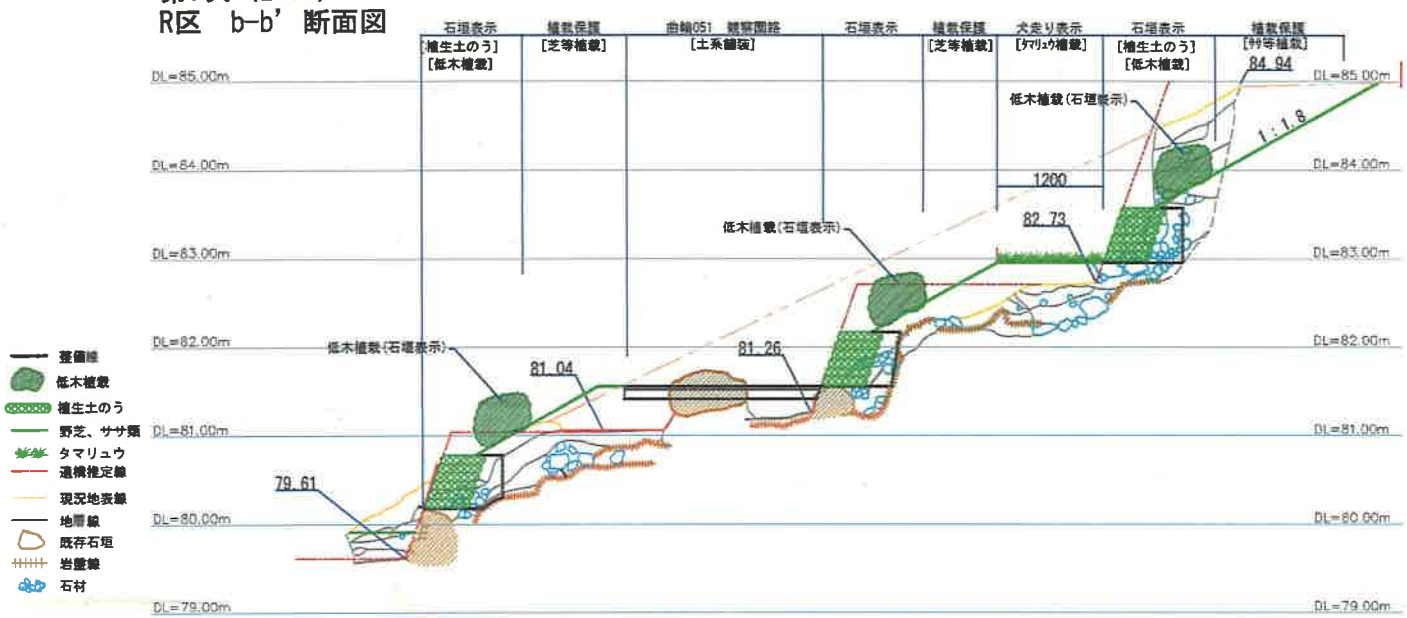
第3次（2011）
K区　A-B 断面図



【β－整備標準図（植生土のう＋
低木植栽表示パターン-②）】

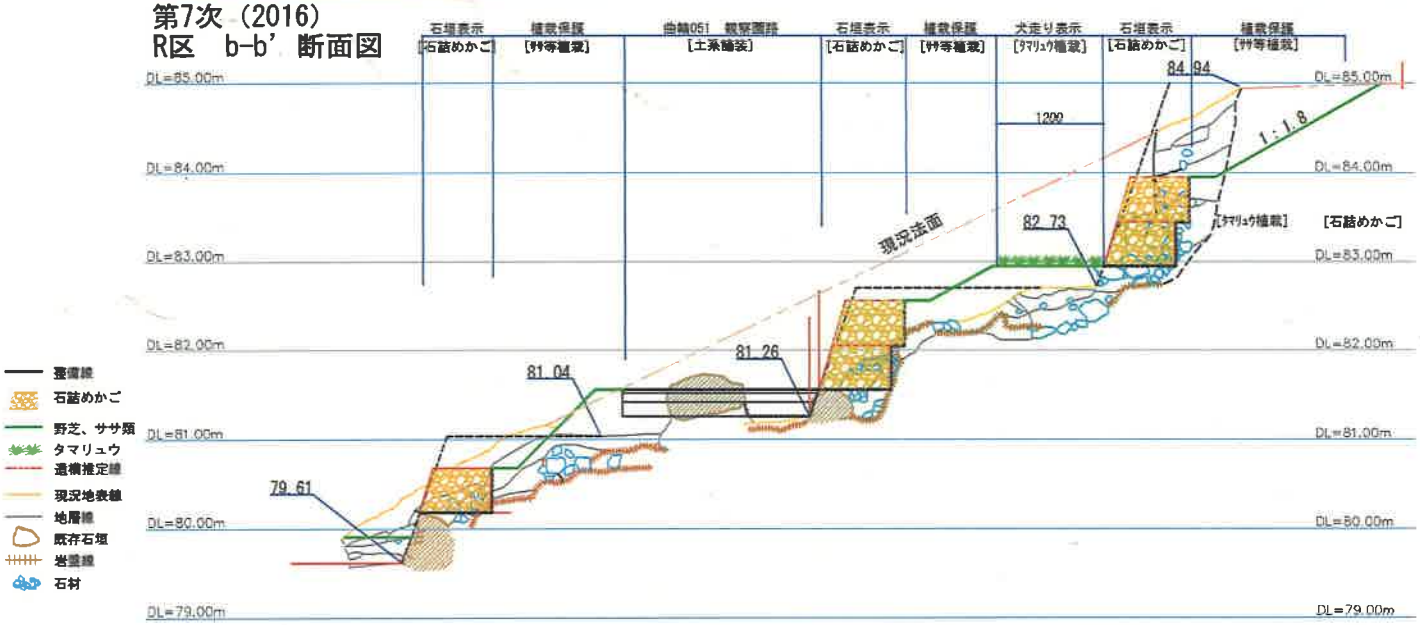


第7次（2016）
R区　b-b’ 断面図



【β－整備標準図（石詰めかご表示パターン）-③】

第7次（2016）
R区　b-b’ 断面図



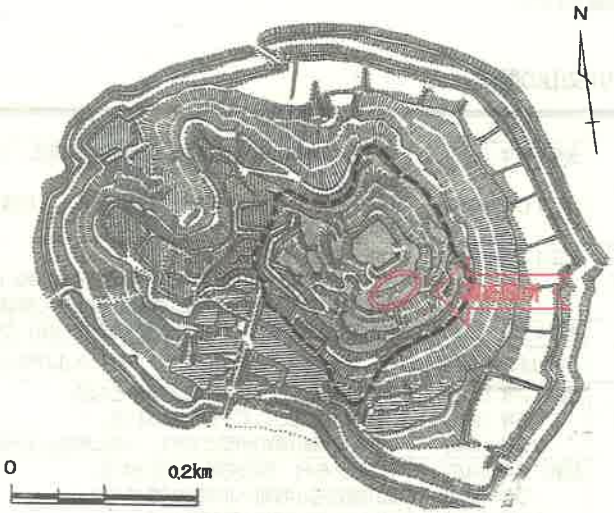
主郭地区　修正整備計画図（案）

			年度	29 2017	30 2018	元 2019	2 2020	3 2021	4 2022	5 2023	6 2024	7 2025	8 2026	9 2027	10 2028
史跡小牧山整備事業	主郭地区整備（Aゾーン）	現計画	発掘調査（現計画）	第10次（3段目石垣・北西）1～8次総括報告書作成	第11次（3段目石垣・南）1～8次総括報告書刊行	9～11次総括報告書作成・刊行									
			基本計画		修正										
			実施設計（α整備）			1工区実施設計	2工区実施設計	3工区実施設計							
			整備工事（α整備）				1工区整備工事	2工区整備工事	3工区整備工事						
			実施設計（β整備）						4工区実施設計	5工区実施設計					
			整備工事（β整備）							4工区整備工事	5工区整備工事	整備事業報告書作成			
		変更計画	発掘調査	第10次（3段目石垣・北西）1～8次総括報告書作成	第11次（3段目石垣・南）1～8次総括報告書刊行	第12次（1・2工区）	第13次（3・4工区）	9～13次総括報告書作成・刊行							
			基本計画 既設物撤去・移設		修正	山頂屋外WC、物置、電報塔		電柱・照明塔～4工区まで各所		銅像撤去					
			作業道整備		（保存活用計画策定）	（保存活用計画策定）実施設計	工事								
			実施設計（α整備）				1工区実施設計	2工区実施設計	3工区実施設計	4工区実施設計					
			整備工事（α整備）						1工区整備工事	2工区整備工事	3工区整備工事	4工区整備工事			
			実施設計（β整備）			5工区実施設計									
			整備工事（β整備）					5工区整備工事					整備事業報告書作成		
	主郭地区整備（案）		Bゾーン	※ 各ゾーンの着手順・調査 箇所は基本計画で決定 ※ 各ゾーンの区割りについては「主郭地区整備基本計画」に準拠 （区割りについても計画の修正の中で検討する必要あり）							調査	実施設計	整備工事		
			Cゾーン									調査	実施設計	整備工事	
			Dゾーン						調査	調査	実施設計	整備工事			
			E-1ゾーン										調査	実施設計	整備工事
			E-2ゾーン											調査	実施設計
			F・Gゾーン												調査
史跡センター建設事業	史跡センター		建物		建設工事	供用開始									
			展示		制作委託										
	史跡センター周辺整備		史跡整備		整備工事				整備事業報告書作成						
			登山道部分（新）	実施設計	整備工事										
			登山道部分（現）			発掘調査	実施設計	整備工事							
史跡全域					史跡保存活用計画策定										

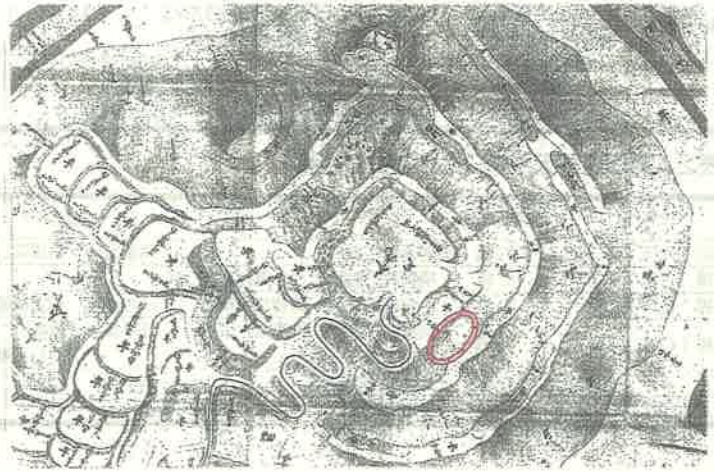
史跡小牧山　整備スケジュール（案）

史跡小牧山主郭地区　第１１次発掘調査
現地説明会資料

平成３０年１１月１８日（日）１０：３０～



小牧山城概強図
（破線の範囲が主郭地区）



春日井郡小牧村古城絵図（部分拡大）
※十七世紀中頃　蓬左文庫蔵

遺　跡　名

小牧山城（こまきやまじょう）（国指定史跡　小牧山）

所　在　地

愛知県小牧市堀の内一丁目地内

調 査 理 由

史跡整備

調 査 面 積

約　５２０㎡

調 査 期 間

平成３０年６月～平成３１年１月（予定）

調 査 主 体

小牧市教育委員会

図１　調査位置（Ｘ区）と見学ルート

１　調査の概要

史跡小牧山主郭地区の発掘調査は史跡整備に伴う事前調査のため、４ヵ年の試掘調査と１０ヵ年の発掘調査を経て、今年度が１５年目です。今回の調査と過去の調査成果から、永禄６年（1563）に織田信長が築いた小牧山城の姿が徐々に明らかとなってきています。

今年度は主郭（本丸）南斜面で調査区（X 区）を設定し、調査を行いました。

調査で得られた主な成果は以下のとおりです。

２　調査成果（何が明らかになったのか）

【1】主郭(本丸)南側の1～2 段下の斜面で石垣と岩盤による壁面を確認。それにより区画される2面の曲輪(曲輪022・023)を確認しました。

主郭の南斜面、麓から続く小牧山城の大手道の東側に位置する今回の調査区は、平成26年度の第7次発掘調査で確認された3段目の石垣の延長に位置する斜面とその下に曲輪(022、023)があったとされる場所です。調査により、斜面は高さ約5. 8mで、上半が石垣、下半が小牧山本来の岩塊を人工的に切り建てて壁面とした岩壁で形成されていることが明らかとなりました。石垣は曲輪022では現在検出中のため詳細不明、曲輪023では高さ 0.8m、延長31mですが、裏込石の残存範囲から当時の高さは約 1.6mだったと推定されます。岩壁は石垣の下約3mの高さで人工的に切り建てられており、特に下端付近では成形加工の痕跡が顕著です。石垣の勾配は約67度、岩壁の勾配は約60度です。(写真1)

写真１　石垣と岩盤の発掘状況

写真２　曲輪０２３で確認した土坑ＳＫ01

また曲輪022と023の間、約2mの段差の斜面も岩盤を人工的に掘って整えていることも確認できました。

曲輪 023 の東側では、2基の土坑 SK01、02を確認しました。(写真2) 土坑 SK02 は、長辺約0. 8m、短辺約0. 7m、深さは0. 6m、いずれも曲輪面の岩盤を掘り下げて直方体の穴を造っています。土坑の埋土からは大量の礫(転落した石垣石材と思われます)とともに戦国期の遺物が出土していますが、これらの穴がどのように使われたのかは不明です。

【2】小牧山城内で初めて屋敷建物の一部を確認しました。

曲輪 023 では上記の石垣・岩壁面に接するように建てられた2棟の礎石建建物の一部を確認しました。西側の建物 A は4間(6m)分の幅を持つとみられますが、奥行きについては調査区外に延びるため不明です。建物北側の壁沿いに玉石敷と排水用の側溝を伴うことが確認されました。(写真3) 建物 B は建物 A から東に約1. 5m離れた箇所で、建物 A と向きをそろえて建てられています。2間(3m)以上分幅を持つとみられますが、奥行きについては調査区外に延びるため不明です。建物 B には玉石敷は伴いません。建物付近の曲輪023面からは、天目茶碗や青磁の小碗などが出土しています。(写真4)

写真3　(左から) 建物A礎石列と玉石敷、側溝

小牧山城では、平成27年度の第8次調査で、主郭の東、搦手口にあたる場所で門と推定される礎石を1石確認していましたが、今回見つかった建物跡は、屋敷・館として利用する建物の一部と推定できます。主郭及び城内で初めて確認事例であり、小牧山城の当時の姿や機能を知る上で大変大きな成果と言えるでしょう。

写真4－1　天目茶碗出土状況（曲輪０２３）

【3】見つかった2棟の建物により、小牧山城の山頂には屋敷群が存在したことが判明しました。
これらは「信長の館」の一部である可能性があります。

信長は付表2のように本拠地を清須⇒小牧⇒岐阜⇒安土と移しています。このうち、岐阜城と安土城では信長のための特別な生活空間が山頂に設けられ、限られた者にしか立ち入りが許されていない様子が城を訪れた宣教師の記録などから伝えられています。

小牧山城で、主郭を含む周辺がどのように利用されたかはこれまではっきりとはわかりませんでしたが、今回確認された建物跡がそれらに相当する施設である可能性が出てきました。

写真4－2　青磁小碗出土状況（曲輪０２３）

その根拠としては、

① これまでの調査から、小牧山城では石垣は中腹以上にしか分布せず、信長が山頂～中腹を「信長の城」として特に石を用いて築いており、今回の調査区もその範囲に含まれること。

② 主郭周辺や山麓の調査ではほとんど出土していない茶器や青磁など高級品が出土していること。

③ 建物周囲に精緻な玉石敷をめぐらせていること。
(城郭内建物に玉石敷が伴う例としては、豊臣秀吉の肥前名護屋城内の御殿など格式の高い建物や茶室など遊興性の高い建物に限られ、城主あるいはそれに近しい人々にのみ使用が可能な設備といえます)

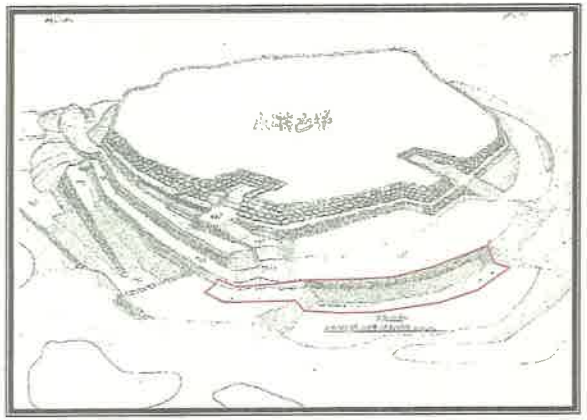
などが指摘できます。

付表１：小牧山の歴史

時　代	年	できごと
戦国時代	永禄　6年（1563）	織田信長が小牧山城を築城し、清須から移る。小牧山南麓には城下町を整備した。
	10年（1567）	織田信長、稲葉山城を攻略。岐阜と改称し、小牧山から居城を移す。小牧山城は廃城となる。
安土桃山時代	天正12年（1584）	小牧・長久手の合戦（羽柴秀吉軍と織田信雄・徳川家康連合軍の戦い）徳川家康は織田信長の小牧山城跡を改修して陣城を築く。
江戸時代	慶長15年（1608）	名古屋城築城開始。小牧山城の石垣を持ち出しか？
	小牧山は尾張藩領となり、家康公ゆかりの地として、一般の入山が禁止される。	
明治時代	明治　2年（1869）	版籍奉還により、小牧山は国有地となる。
	5年（1872）	県立小牧公園として一般公開される。
	22年（1889）	小牧山が徳川家の所有となり、一般公開を止める。
昭和～平成	昭和　2年（1927）	10月26日　国の史跡に指定される。
	5年（1930）	徳川家から小牧町へ小牧山が寄付される。
	22年（1947）	東麓に小牧中学校が建設される。
	43年（1968）	山頂に小牧市歴史館が建設される。
	平成10年（1998）	小牧中学校を史跡外へ移転する。
	15年（2003）	小牧中学校跡地を史跡公園として整備、開放される。
	16年（2004）	主郭地区試掘調査開始（第1～4次調査）
	20年（2008）	主郭地区発掘調査開始（第1～11次調査）

付表２：織田信長天下統一への過程と城郭

年　代	信長年齢	できごと	城郭名	信長築城か？
弘治　元年（1555）	22歳	清須城入城	清須城　：石垣なし	×
永禄　3年（1560）	27歳	桶狭間の戦いで今川義元を討つ		
永禄　6年（1563）	30歳	小牧山城築城、清須から移る	小牧山城：石垣構築	○
永禄10年（1567）	34歳	稲葉山城攻略、岐阜城と改め小牧山城から移る	岐阜城（千畳敷）：巨石石積	改修
天正　4年（1576）	43歳	安土城築城開始	安土城　：総石垣	○
天正10年（1582）	49歳	本能寺の変		



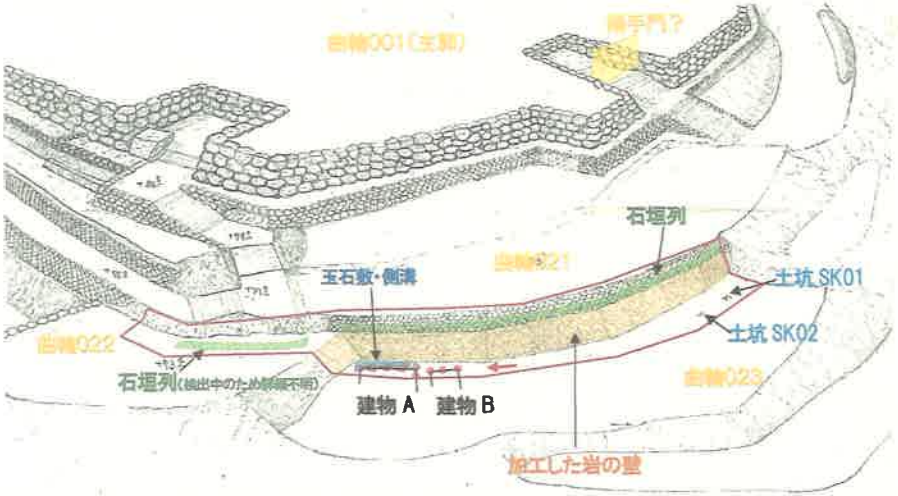


図2　小牧山城山頂周辺推定模式図と今年度調査で見つかった遺構

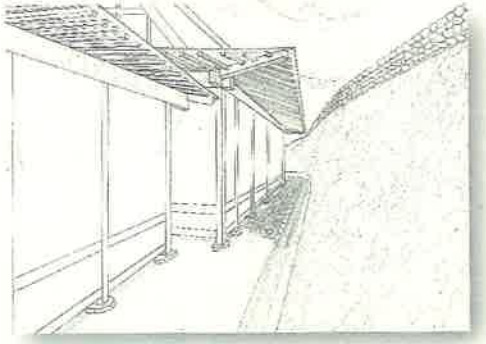


図3　建物A・Bおよび玉石敷列、
側溝の立体想像図
（図2の← 方向から見たところ）